

はじめに

本報告書は、肢体不自由教育研究部が平成11年度から平成13年度までの3年間に行った二つの研究課題「運動に障害のある子どもの教育における指導とその評価に関する研究」及び「運動に障害のある子どもの教育における地域と学校とのネットワークに関する研究」に関する成果のまとめです。

前者では、運動に障害のある子どもたちに対する教育活動の質を高めていくために、授業研究を通じた指導の振り返りと再構築を継続的に行い、これを分析するというを行いました。

後者では、学齢期にある障害のある子どもの教育について、学校は他の地域社会資源とどのようなネットワークを形成しながら教育活動を展開していったらよいかについて、保護者が学校に対してどのような期待を持ち、また日常生活を送っているのかを知ることを通じて検討するという内容を扱っています。

研究の経過の中で、学校は、今後これら二つの内容を相互関連するものと捉えることによって教育活動全体の充実を図ることができること、その方向性が社会からも強く求められていることが明らかになってきました。このことから、二つの課題に関する協議会を合同で行うなどの工夫をして研究を推進しました。

このなかで、教育活動の最前線にいる教師自身が意欲的かつ主体的に指導力を向上させていくにはどうしたらよいか、保護者や他機関との協力はどのようにしたら実現するのかという課題が、繰り返し話題となりました。報告書の中にはこれらの課題についても触れてありますが、具体的な学校という場に即して実際的な検討を積み重ね、さらに見通しを明らかにしていくことが必要であると思います。

これら二つの研究には、協力機関として3校から研究フィールド及び資料の提供という協力をいただきました。また、協力機関に在職される方を含め10名の方々に協力者としてご参加いただきました。本報告書には、多くの協力者の方々に本研究課題について共に取り組んでいただいた内容について、それぞれのお立場から執筆をお願いすることができました。ご協力いただきました機関、ご協力いただきました方々に厚くお礼申し上げます。

読者の皆様には、内容に関する忌憚の無いご意見、ご感想をお寄せくださいますようお願いいたします。

平成15年3月

肢体不自由教育研究部